

# 『杜騙新書』の国立国会図書館蔵抄本について

氏岡 真士 閻 小妹

キーワード：朝川善庵 頭注 左訓と右訓 傍訓

明の短編小説集『杜騙新書』は、かつて日本でも愛読され、抄本（chāo běn。写本、鈔本）もいくつか現存している。そのうち日本の国立国会図書館蔵抄本は、複数の手になる書き込みが認められるなど、江戸時代における『杜騙新書』の受容や読解について、その実態の一端を反映する好個の資料である。本稿では、江戸時代の和刻本にも収録された全 17 話に絞って、書き込みの具体相を見てみたい。それに先立って、全体的な特徴を整理しておこう。

## 一、脱字の書き込み

国会抄本は本文半葉 10 行 20 字で、かつ第 1 葉 a 面から始まる点は、明刊本が 9 行 20 字で 1 b から始まるのと異なる。しかし各行 20 字に変わりは無いため、本文書写時に書き洩らしがあっても、改行時に書写者が気づきやすい。

一行に 19 字しか無く、その行の文字間に黒く小さな○を付け、右側に文字を傍注として書き込むのは、書写者によるものであろう。たとえば通算第 6 話「詐稱偷鵝脱青布」では「其○布者」「左右○皆答曰」のように、（実際には小さな）白丸が字間に挿入され、それぞれ傍注「盗」、「店」が付されている（巻一 9 b、10 a）。

ちなみに同じ通算第 6 話でも「悪・嘈雜之聲○」の場合は、「悪」の下には「・」が挿入され、「其」と傍注が付され、行末に当たる一字分には（実際には小さな）白丸が収まっている（10 a）。このような場合もある。

なお国会抄本が、明刊本から直接書写されたか否かは不明である。また後述するように傍注には、もっとあとの段階で付されたと認められるものもあり、ここで述べたものとそれらとは区別すべきである。

## 二、断句と頭注

ひととおり書写された本文は、別人が朱で断句しながら読み、また後述する「鉛汞曰」以外の頭注を、やはり基本的に朱で付したものと観察できる。これらは他の書き込みによって正される傾向があるように、必ずしも正確とは言い難い。

たとえば通算第 6 話「詐稱偷鵝脱青布」で、やはり朱書だが「愛<sub>下</sub>得<sub>下</sub>對門店下一隻

鵝<sub>上</sub>吃」と返り点を加え、吃に左訓「クラハンコトヲ」が付されている例は（巻一 9 a）、「愛得對門店下、一隻鵝吃」という断句を正す意図であろう。また通算第 11 話「道士船中換轉金」の本文「賁生取看幾有足色<sup>(\*)</sup>金」は、(\*) に対して頭注「足色、美金名。」とある（巻一 16 b。珍しく藍書されている）。ところが、この個所は別に「看<sub>三</sub>幾有<sub>二</sub>足色<sub>ナニホドノモノト</sub>金<sub>一</sub>。」と返り点や左訓がやはり朱書で施されており、これらは「足色」に対する頭注の解釈を正す意図があるだろう。なお返り点や左訓等については後ほど改めて述べる。

伝統的な漢籍の素養が、読解の邪魔をしているふしもある。たとえば通算第 13 話「詐無常燒牒捕人」の本文に「次日人來社司祈筭」とあり（巻一 20 b）、「筭」は吉凶を占うポエのことだが、頭注は「筭疑筭誤、筭雜也」としている。「筭」が「雜」だというのは、たとえば『文選』李善注に見えるが（胡刻本卷三十一 25 b、江淹「雜體詩（顔延之）」）、そもそも「筭」を「筭の誤り」かと疑う必要は無い。

いっぽう「鉛汞（日）」で始まる頭注は、他の頭注とは一線を画す。たとえば通算第 44 話「偽粧道士騙鹽使」の本文「二人見鹽使者應允、速夜赴吳興」では、「速夜」に対して「鉛汞按、速夜、連夜誤」とある（巻二 35 b）。また通算第 45 話「陳全遺計嫖名妓」の本文「陳全走得忙、院子安排定。只因兩塊皮、幾喪我的命。」では、「兩塊皮」に対して「鉛汞按、這双関ニ意<sub>リョウギンナ</sub> [=ア] リ、皮ハ蓋 [シ] 〈毛+必〉ト云コトナルベシ、『金瓶梅』〈毛+必〉、陰門ヲ云。」とある（巻二 36 b）。つまり「兩塊皮」は、引用部の前段で陳全が足を滑らせた「瓜皮二片」と女性器との掛け言葉だと言いたいのであろう。

「鉛汞」による書き込みは墨書されるが、内容から見て相対的に遅い段階でなされたと考えられ、そこには中国の白話（俗語）に対する一定の理解も窺える。この「鉛汞」は、儒者の朝川善庵（1781～1849）を指す可能性があるだろう。善庵の名は鼎、字は五鼎と伝えられるが、「鼎」と「鉛汞」とは、鍊丹術にちなんだ縁語である。ちなみに国会抄本は全四巻が上中下 3 冊に編まれているが（巻三・四が下冊）、各冊の冒頭（1 a）に「善庵暴（=曝）書」の蔵書印が捺されており、朝川善庵の旧蔵書だったとわかる。

### 三、傍注と返り点

通算第 23 話「裝公子套妓脱賭」の本文「相公此如寬容」に対して、「此」に傍注「下」、「如」に傍注「上」とある（巻一 39 b）。また通算第 31 話「公子租屋劫寡婦」の本文「並人人知」に対して、上の「人」に傍注「無」があり、左側に「＝」が削除記号として付される（巻二 15 a）。これらは墨書されているが、書写時や断句時のものだろうか。

これより先、たとえば通算第 3 話「明騙販猪」で、

寶曰、既要買<sup>(A)</sup> 我、同你家去、棍曰、我要往縣、你拿出與我看、若合吾意、議定價方好<sup>(B)</sup>、回家秤銀<sup>(C)</sup>、不然、恐阻程途矣。

と本文が断句されているが（巻一 5 a）、ほかに (A) に「○句」と傍注があり、この

傍注は、朱書による「我」の下での断句は誤りで、「買」で断句すべきことを示す。また(B)に「○非句」と傍注があり、この傍注は、「好」での断句を正している。さらに(C)に至る部分で「議<sub>レ</sub>定價<sub>ヲ</sub>方<sub>ニ</sub>好<sub>シ</sub>回<sub>レ</sub>家<sub>ニ</sub>秤<sub>レ</sub>銀<sub>ヲ</sub>。」と前後に返り点や送り仮名を付すのも、断句の補正であろう。そしてA～Cは、いずれも墨書されている。

つまりこれらの墨書による傍注等は、朱書による最初の断句より後に新たにされたものであろう。ただし「二」で述べたように、それが朱書される場合もある。墨書との使い分けに意味は認めにくい。複数の別人によることの反映であろう。

また返り点が正しいとは限らない。通算第27話「盗商夥財反喪財」には、「奈<sub>ニ</sub>張兄人請吃酒、未<sub>レ</sub>能辞別」と返り点が朱書されるが(巻二5a)、「未」に一点を付けるのは明らかに間違いである。同じ話で「見<sub>レ</sub>一盪船載二人、有行李三擔、上去<sub>レ</sub>趕<sub>レ</sub>得着、否」と断句し返り点等を朱書するのも(巻二5b)、一点は「去」に付けて文を終え、「趕得着否」は独立した可能補語疑問文と解すべきである。

なお通算第41話「帶鏡船中引謀害」の「乃<sup>(A)</sup>世家子也。……虎對面撲來<sup>(B)</sup>、……鎬從後趕<sup>(C)</sup>打」において(巻二27b)、(A)に送り仮名「チ」があり、(B)に右訓「ヨリ口」があり(口は判読不能)、(C)に「從<sub>レ</sub>後趕<sub>レ</sub>打」と訓点が付される(「打」に送り仮名なし)。これらは目立って線が細いなど、弱々しい書きぶりで他の墨書と異なる。別人による例外的な書き込みかと疑われる。

#### 四、左訓と右訓

たとえば通算第11話「道士船中換轉金」の本文に「一家生意、在此把本、子送去了」と断句した個所があるが(巻一16b)、これは「一家生意在此、把本子送去了」と点を切るべきである。ところが「把本」に「シゴト」と左訓があり、断句の誤りと軌を一にする。いずれも朱書される。

いっぽう通算第6話「詐稱偷鵝脱青布」で、「嘗曰……得沈静、些忽棍聞之」と本文が断句されているが(巻一9a)、「些忽」には左訓「タチマチ」のほか、傍注「句」が付され、「些」の下には小さな「○」も付される。そして頭注に「鉛汞曰些ノ字、句」と記される。この場合、断句の通り「些忽」の二字に「タチマチ」と左訓が朱書され、次に傍注が「得沈静些」で一句であると、墨書で左訓の誤りを正し、さらに鉛汞(朝川善庵?)が頭注を加えた、と観察できよう。ここでの傍注は、見かけは上述した脱字の書き込みと同じだが、解釈に踏み込んでおり、明らかに意味合いが異なる。

同じ通算第6話の後のほうで、本文が「只是自己、皆死説不得也」と断句された個所は、「死」に「句」と傍注があり、「死」の下には小さな白丸が挿入される。また「死説不」に対して、左訓が「ナントモイハヌ」とあるが、頭注は「鉛汞按、皆死、該死ナルベシ……」と記す(巻一10a)。この場合は朱書された断句や左訓の誤りを傍注が墨書で正し、鉛汞(朝川善庵?)が頭注で説明を補っていると言えよう。

このあと本文に「事久。衆隣覺<sub>レ</sub>之。始笑<sub>下</sub>此人之痴而深服<sub>中</sub>此棍賊之高手<sub>上</sub>矣」と句

点や返り点が墨書されるのも（巻一 10 a）、初め「衆隣」や「此人之痴」で断句した朱書を、正したものと認められる。

ただし返り点を付しても、やはり通算第 6 話（10 a）で「利<sup>トス</sup>失對隣之鵝」とあるように断句を正す意図は無さそうな場合もある。これは朱書だが、難読と認めて付した個所であろう。

また左訓が誤りとも限らない。通算第 3 話の後段に「況棍走遠難追，但咒罵一場」とあり（巻一 5 b）、「咒罵」には左訓「バチアタリメガト云」と右訓「○ツブヤクコト」が両論併記となっている。この例も左訓が朱書、右訓が墨書され、右訓は左訓を正そうとしているように見えるが、左訓のほうが良かろう。

以上のように、複数の手になるであろう書き込みの関係は錯綜しているが、総ずれば新しいと認められるものが、正確な読解に近づく傾向があると見て良かろう。

以下タイトル前に付した番号は、国会抄本や明刊本において通算第何話かを示す。書き込みのうち頭注にはアルファベットを付し、左訓等のアラビア数字と区別する。本文は誤記の目立つこの抄本ではなく、この全 17 話を明刊本と和刻本によって校訂した伊藤加奈子他『『杜騙新書』訳注稿初編』（『『杜騙新書』の基礎的研究』プロジェクト、2015 年）に基づくことにする。また国会抄本における本文の異同も、書き込みに関わる場合を除いて今回は取り上げない。いっぽう和刻本との関係を見るべく、その左訓や返り点等は注記に努めたが、両者に積極的な関係は認めがたい。なお和刻本についての記述は、『『杜騙新書』訳注稿初編』の誤りを正した所がある。

## 1. 假馬脱緞

（巻一 1 a、一類〈脱剥騙〉、明刊本 1 b、和刻本 17 ウ、第 8 話）

江西有陳姓，慶名者，常販馬，往南京承恩寺前三山街賣。時有一疋銀合好馬，價約值四十金。忽有一棍，擎好傘，穿色衣，翻然而來，佇立瞻顧，不忍舍去，遂問曰：「此馬價賣幾許？」慶曰：「四十兩。」棍曰：「我買，但要歸家作契對銀。」慶問：「何住？」棍曰：「居洪武門。」棍遂騎銀合馬往，慶亦騎馬隨後。

行至半途，棍見一緞鋪，即下馬，放傘於酒坊邊，囑慶曰：「代看住，待我買緞幾疋，少頃與你同歸。」慶付：「此人想是富翁，馬諒買得成矣。」棍入緞鋪，故意與之爭價，待緞客以不識價責之，遂佯<sup>(a)</sup>曰：「我把與一相知者看，即來還價何如？」緞客曰：「有此好物，憑伊與人看，但不可遠去。」棍曰：「我有馬與夥在，更何慮乎。」將緞拿過手，出門便逃去。緞客見馬與夥尚在，心中安然。

（a）佯。本文は伴。

慶待至午，杳不見來，意必棍徒也，遂舍其傘，騎銀合，又牽一馬回店。緞客忙奔前，扯<sup>(1)</sup>住慶曰：「你夥<sup>(2)</sup>拿吾緞去，你將馬往。」慶曰：「何人是我夥？」緞客曰：「適間<sup>(3)</sup>與你同騎馬來者。你何佯推，定要問你取。」慶曰：「那<sup>(4)</sup>人不知何方鬼，只是問我買馬，令我同到他家接銀，故與之同來矣。他說在你店買緞<sup>(5)</sup>，少頃與我同去，我待久不見來，故騎自<sup>(6)</sup>馬回店。你何得妄纏我乎？」緞客曰：「若不是你夥，何叫你

看傘與馬？我因見你與馬在，始以緞與他。你何通同妝套<sup>(7)</sup>，脫我緞去？」二人爭辨不伏，扭在<sup>(8)</sup>應天府理論。

(1) ヒキ(右訓)。和刻本ヒキトドメ(扯住)。(2) ツレヒト。(3) タダイマ(右訓)。和刻本タダイマ。(4) ソノ。和刻本アノ。(5) 説<sub>レ</sub>在<sub>レ</sub>去<sub>レ</sub>。(6) ワガ。和刻本右訓ワガ。(7) イイアハセテ。和刻本モクロミ。

緞客以前情直告。慶訴曰：「慶籍江西，販馬為生，常在三山街翁春店發賣，何常作棍。冤遇<sup>(1)</sup>一人，問我買馬，必要到他家還銀，是以同行。彼中途下馬，在他店拿緞逃去，我亦不知，怎<sup>(2)</sup>說我是棍之夥？」府尹曰：「不必言，拘<sup>(3)</sup>店家來問，即見明白。」其店家曰：「慶常販馬，安歇<sup>(4)</sup>吾家，乃老實本分人也。」緞客曰：「既是老實人，緣何代那<sup>(5)</sup>棍看傘與馬？此我明白聽見，況他應諾。」慶曰：「叫<sup>(6)</sup>我看傘，多<sup>(7)</sup>因為他買馬故也，豈與之同夥？」府尹曰：「那人去，傘亦拿去否？」緞客曰：「未曾拿去。」府尹曰：「此真是棍了。欲脫你緞，故託買馬，以陳慶為質，以他人之馬，賺你之緞，是假道滅虢術也。此你自遭騙，何可罪慶。」各逐出免供<sup>(8)</sup>。

(1) フシアハセニ。(2) 送り仮名：ンゾ。和刻本イカンゾ(右訓)、ドウシテ。(3) メシ。和刻本トラへ。\*メシは召し。婉曲表現か。(4) トマル。和刻本トマル(右訓)。(5) カノ(右訓)。(6) ヨブ。和刻本シムルハ(右訓)。\*叫は使役。和刻本が良い。(7) マサニ。和刻本マサニ(右訓)。(8) センギ。和刻本クチガキ。\*センギは詮議、取り調べ。クチガキは口書、供述書。和刻本のほうが逐語的。

吾觀作棍亦多術矣。言買馬非買馬，實欲假馬作囚，為脫緞之術，故先以色服章身，令人信其為真豪富。既而佇立相馬，令人信其為真作家<sup>(1)</sup>。迨入緞鋪，誑言有馬與夥，令人信其為真實言，至脫緞而走，以一傘貽慶，與緞客爭訟，此皆以巧術愚弄<sup>(a)</sup>人也。若非府尹明察，斷其為假道滅虢，則行人得牛，不幾邑人之災乎。雖然，慶未至混跡於縲紲<sup>(2)</sup>，緞客已被鬼迷於白晝矣。小人之計甚詭，君子之防宜密，庶棍術雖多，亦不能愚弄<sup>(b)</sup>我也。

(a) 弄。美、弄誤、下同。本文は美。(b) 弄。本文は美。

(1) マコトニ馬ヲカフモノト。和刻本マコトニカウシャ(=巧者)。(2) 未<sup>レドモ</sup>至<sup>レ</sup>混<sup>ズルニ</sup>跡於縲紲(レドモは左傍にあり)。和刻本は未<sup>ダ</sup>至<sup>ラ</sup>混<sup>ズルニ</sup>跡<sup>ヲ</sup>於縲<sup>コ</sup>紲<sup>ニ</sup>(ズは右傍にあり)。なお縲紲は本来、牢屋そのものではなく捕縛用の繩のこと。

## 2. 先寄銀而後拐逃

(卷一3 a、一類<脱剥騙>、明刊本4 a、和刻本15ウ、第7話)

通州有姓蘇名廣者。同一子販松江梭布、往福建賣。布銀入手。回至半途、遇一人。姓紀名勝。自稱同府異縣。鄉語相同。亦在福建賣布而歸。勝乃雛家<sup>(1)</sup>。途中、認廣為親鄉里。見廣財本更多、乃以己銀貳拾餘兩、寄藏于廣箱內。一路小心代勞、渾如同伴。

(1) アキナヒナレヌ。和刻本ミジユクナモノ。

後至日久、勝見利而生奸。一夜、伴<sup>(a)</sup>稱瀉病、連起開門出去數次。不知廣乃老客<sup>(1)</sup>也。見其開門往返、疑彼有詐謀。且其來歷不明。彼雖有銀貳<sup>(b)</sup>拾餘兩寄我箱內、今夜似有歹<sup>(2)</sup>意。乘其出、即潛起來、將己銀與勝銀并實落衣物、另藏別包袱、置在己身邊、仍以舊衣被、包數片磚石、放在原箱內、佯作熟睡。勝察廣父子都睡去、將廣銀箱、夤夜<sup>(3)</sup>挑走。廣在床聽勝動靜、出門不歸。曰：「此果棍也。非我、險遭此脫逃矣。」

(a) 伴、佯誤。本文は伴。(b) 傍注：二。本文は「貳」字を欠く。

(1) アキナヒニナレタリ。和刻本タビナレタルモノ。(2) カスメトル。和刻本アシキココロ。\*和刻本が勝る。(3) ヨナカ。和刻本ヨフケテ。

次日、廣起、故驚訝勝竊己銀本、將店主扭打<sup>(1)</sup>、說：「他通同<sup>(2)</sup>、將我銀偷去。」其子弗知父之謀、尤怒毆不已。父密謂曰：「此事我已如此如此。」方止。早飯後、廣曰：「我往縣告。若捕得那<sup>(3)</sup>棍、你来作証。不然、定要問你取矣。」廣知勝反中已術、徑從小路趨<sup>(4)</sup>歸。

勝自幸竊得廣銀、茫茫然行、至午、路將百里。開其箱內、乃磚石舊衣也。頓足大恨。復回原店。却被店主扭打一場。大罵曰：「這賊、你偷人銀、致我被累。」將繩繫頸、欲要送官。只得吐出真情、叩頭懇免。時勝與廣、已隔半日程途。追之不及。徒自悔恨而已。

(1) カカリアヒトシ。和刻本ネヂスヘウチ (右訓)。\*和刻本が勝る。(2) イヒアハセテ。和刻本ナレアヒ。(3) カノ (右訓)。和刻本カノ (右訓)。(4) チクチクニ。和刻本モヨホシ (右訓)、ハシリ (左訓)。\*チクチクは、徐々にの意か。趨は和刻本右訓モヨホ〔シ〕の意味もあるが、文脈からみて和刻本左訓のハシリが良からう。

按：紀勝非雛客、乃雛棍也。先將己銀、托寄于廣、令其不疑。後以詐瀉開門、候其熟睡、即連彼銀、共竊而逃。彼之為計、亦甚巧矣。蓋此乃欲取姑與。棍局中一甜術也。孰知廣乃老客、見出其上<sup>(1)</sup>。察其動靜、已照其肝胆。故因機乘機、將計就計。勝已入厥筭中而不自知矣。

夫勝欲利人之有、反自喪其有。雛家光棍、又不如老年江湖<sup>(2)</sup>也。待後回店、被其扭打捻頸<sup>(3)</sup>、哀告以求免。是自貽伊戚。又誰咎也。天理昭昭、此足為鑑。

(1) 出<sub>二</sub>其上<sub>一</sub>〔<sub>一</sub>〕<sup>ニダイベン</sup>。和刻本ソノ上ノシアンヲダシ。\*大弁 (おほともひ、左右の弁官の長) 転じて上手の意か。和刻本の解釈が勝るであろう。(2) タビナレタルモノ。和刻本ナレタタビビト。(3) クビサゲテ。和刻本ネヂクビ。\*ネヂクビは振じ首、首をねじって殺すこと。殺してはいないが、和刻本の解釈が勝るであろう。

### 3. 明騙販豬

(卷一 4 b、一類<脱剥騙>、明刊本 5 b、和刻本 20 ウ、第 9 話)

福建建陽人鄧招寶者、常以挑販<sup>(1)</sup>為生。一日販小豬四隻、往崇安、大安去賣、行至馬安嶺上、遇一棍問他買豬。寶意此山徑僻嶺、無人往來、人家又遠、何此人在路上買豬、疑之、因問其何住。棍曰：「即前馬安坪<sup>(a)</sup>也。」寶曰：「既要買<sup>(2)</sup>、我同你

家去。」棍曰：「我要往縣，你拿<sup>(3)</sup>出與我看，若合吾意，議<sup>(4)</sup>定價方好<sup>(5)</sup>回家秤銀<sup>(6)</sup>，不然，恐阻程途矣<sup>(7)</sup>。」此棍言之近理，寶即然之，遂拿一豬與看。

(a) 坪は「不」の下に「平」。頭注：「不平」疑卒誤。

(1) ウケウリ。和刻本ニナヒウリ。(2) 傍注：○句。(3) ヒキ。(4) 豎点あり。

(5) 傍注：○非句。(6) 議<sub>レ</sub>定價<sub>レ</sub>方<sub>ニ</sub>好<sub>シ</sub>回<sub>レ</sub>家<sub>ニ</sub>秤<sub>レ</sub>銀<sub>ヲ</sub>。和刻本：議<sub>シテ</sub>定價<sub>レ</sub>方<sub>ニ</sub>好<sub>シ</sub>回<sub>レ</sub>家<sub>ニ</sub>秤<sub>レ</sub>銀<sub>ヲ</sub>。(7) 吾家マデキテモシカハヌトキハ(ヲ)ムダアシニナラフ。和刻本：恐くは程途(ミチノリ)を阻(サマタゲ)ん矣

棍接過手，拿住豬尾，放地上細看，乃故放手，致豬便走，佯作驚恐狀，曰：「差矣，差矣。」即忙趕捉。不知趕之正驅之也<sup>(1)</sup>。寶見豬遠走，猛心奔前追捉，豈知已墮其術也。

(1) 不知趕<sub>レ</sub>之<sub>ニ</sub>正驅<sub>レ</sub>之<sub>ヲ</sub>也。和刻本：不知趕<sub>レ</sub>之<sub>ニ</sub>正驅<sub>レ</sub>之<sub>ヲ</sub>也。

棍見寶趕豬，約離籠二三百步，即旋於籠內，拿一豬在手，又踢倒二籠，豬俱逃出。大聲曰：「多謝<sup>(1)</sup>你，慢慢尋<sup>(2)</sup>。」寶欲趕棍，三豬出籠逃走，恐因此而失彼，況棍走遠難追，但咒罵<sup>(3)</sup>一場，幸得三豬成聚，收拾<sup>(a)</sup>入籠，抱恨而去。

(a) 捨捨誤(本文は捨)。

(1) カタジケナフゴザル。和刻本カタジケナヒ。(2) ソロソロタヅネラレイ。和刻本：慢慢に(ユルユル)尋よ。(3) バチアタリメガト云。右訓：○ツブヤクコト。和刻本ノノシル。

吾觀棍之脫豬也，一邂逅相逢之頃，賊念即生，乃以詭言相哄<sup>(1)</sup>，致寶深信，所謂君子可欺以其方者也。乃始也放豬佯逐，以誤其遠趕之於前，繼<sup>(2)</sup>也擒豬踢籠，以制其不趕之於後，使人明墮其術，而不自知。倉卒妝套，抑何譎也。商者鑒此，勿謂暗機隱械<sup>(3)</sup>，宜為慎防<sup>(4)</sup>，即明圈顯套<sup>(5)</sup>，尤當加謹。

(1) タラシ。和刻本ダマス。(2) 右訓：ツギニ。和刻本ツギハ。(3) タクミノアルカタリ。和刻本ナイシンノワルダクミ。(4) 勿<sub>レ</sub>謂<sub>レ</sub>暗機隱械、宜<sub>レ</sub>為<sub>レ</sub>慎防<sub>レ</sub>。和刻本：勿<sub>レ</sub>謂<sub>下</sub>暗機隱械、宜<sub>上</sub>為<sub>レ</sub>慎防<sub>レ</sub>。(5) メノマヘノヲツタクリ(目の前の押っ手繰り)。和刻本シラデダマス、シラは明かなこと。

## 6. 詐稱偷鵝脫青布

(卷一9 a、一類<脫剥騙>、明刊本10 b、和刻本13 ウ、第6話)

有一大舖、布疋極多、交易叢雜、只自己一人看店。其店之對門人、養一圈鵝。鳴聲嘈雜、開舖者惡其聒耳。嘗曰：「此惡物、何無盜之者、與我耳頭、得沈靜些<sup>(a)</sup><sup>(1)</sup>。」

(a) 鉛汞曰、些ノ字、句。

(1) タチマチ。和刻本フト(次の「忽」に対して)。傍注：句。「些」の下に○あり。

忽棍聞之、一日<sup>(a)</sup>乘其店中閑寂、遂入店拱手、以手按櫃頭一綑青布、輕輕言曰：「不敢相瞞<sup>(1)</sup>。我實是一小偷。愛得對門店下一隻鵝吃<sup>(2)</sup>。只大街面難下手。我有一

小術、只要一個人贊成。」店主曰：「如何贊成。」小偷曰：「我在這邊、問曰、可拿去否。汝在內、高聲應曰、可。又再問曰、我真拿去。汝再應曰、說定了、任從拿去。我便去拿、方掩得路人耳目。托你贊成、後日你家不須閉門、亦無賊入矣。但你須在內去、莫得竊視。視則法不靈。你直聽鵝聲息、我事方畢。你可出來。」店主然之。

(a) 曰、日誤。本文は曰。

(1) ニラマル。和刻本ダマサズ。(2) 愛<sub>下</sub>得<sub>上</sub>對門店下一隻鵝<sub>上</sub>吃<sub>上</sub>。吃の左訓クラハンコトヲ。和刻本クラブ (吃に対して)。

小偷高聲問曰：「我拿去否。」內高聲應曰：「憑你拿去。」又再高聲問曰：「我真拿去。」內又高聲應曰：「說定了。任你拿去。」兩傍店人、皆聞其問答之語。小偷遂負其櫃上一綑青布而去。人以為借去也。其店主在內、聽得鵝聲駢駢、不敢出來。

其<sup>(1)</sup>盜布者、匆匆行之久矣。伺<sup>(2)</sup>之多時、鵝聲不絕。其店主、恐店內久無人守、只得外出、看鵝尚在、自己櫃頭、反失一綑青布。顧問兩傍店曰：「適纔<sup>(3)</sup>誰上我店、拿我一綑布去。」左右<sup>(4)</sup>店皆答曰：「是那個<sup>(5)</sup>問你買的<sup>(6)</sup>。你再三應聲、叫他只管<sup>(7)</sup>拿去。今拿去已久矣。」店主撫心自悔曰：「我明被此人騙了。只是自己皆死<sup>(a)</sup><sup>(8)</sup>。說<sup>(9)</sup>不得也。」事久衆隣覺之。始笑此人之痴、而深服此棍賊之高手<sup>(10)</sup>矣。

(a) 鉛汞按、皆死、該死ナルベシ。衆憐、衆隣ノ誤 (憐の「巾」は「巾」)。\*「衆憐」(憐の「巾」は「巾」)は後出。

(1) 傍注：盜。「其」の下に「○」、本文に盜字ナシ。(2) イクバク (本文は何)、和刻本ウカガフコト。(3) チットイマ。和刻本イマガタ。(4) 傍注：店。「右」の下に「○」、本文に店字ナシ。(5) ダレカ。和刻本カノモノ。(6) ヒト。和刻本モノ。(7) マカセテ。和刻本ヒタスラ。(8) 傍注：句。「右」の下に「○」。(9) ナントモイハヌ。和刻本テマヘノシタコトナレバ。(10) 「事久、衆隣覺<sub>レ</sub>之。始笑<sub>下</sub>此人之痴、而深服<sub>中</sub>此棍賊之高手<sub>上</sub>矣」。和刻本の返り点は「事久衆隣覺<sub>レ</sub>之、始笑<sub>下</sub>此人之痴<sub>上</sub>、而深服<sub>下</sub>此棍賊之高手<sub>上</sub>矣」。

按：君子仁民愛物、而仁之先施者、莫如隣。物之愛者、即鵝亦居其一。何對隣人養鵝、惡<sup>(1)</sup>其嘈雜之聲、必欲盜之者、以殺之。愛物之謂何哉。利失<sup>(2)</sup>對隣之鵝、而贊成棍賊以盜之。仁心安在。是以致使棍聞其言、乘機而行竊、反贊成其偷。亦是鼠輩也。欲去人之鵝、而反自失其布、是自貽禍也。將誰怨哉。若能仁以處隣、而量足以容物、何至有此失也。

(1) 傍注：其。「惡」の下に「・」(本文は其字ナシ)。(2) 利<sub>レ</sub>ト<sub>ス</sub>失。和刻本の返り点は利<sub>レ</sub>失<sub>下</sub>對隣之鵝<sub>上</sub>。

## 8. 詐匠脩換錢卓厨

(卷一 12 a、一類<脱剥騙>、明刊本卷一 14 a、和刻本第 10 話、21 ウ)

建寧府、凡換錢者、皆以一椅一卓厨、列于街上、置錢于卓、以待人換。午則歸家食飯、晚則收起錢、以卓厨寄附近人家。明日復然。

有一人。卓厨内、約<sup>(1)</sup>積有錢五六千。其卓破壞一角。傍有一棍、看此破卓厨内

多錢、心生一計。待此人起身食午、即裝做<sup>(2)</sup>一木匠、以手巾縛腰、挿一利斧於傍、手拿六尺<sup>(3)</sup>。將此卓厨、橫量<sup>(4)</sup>直量一次、高聲自說自應曰：「這樣破東西<sup>(5)</sup>、當做一新的來換。反叫我修補。怎麼<sup>(6)</sup>脩得。真是吝嗇的人。」自說了一場、一手拿六尺、將卓厨錢、輕輕<sup>(7)</sup>側傾<sup>(8)</sup>、作一邊、將卓厨、負在無人處、以斧砍開、取錢而逃。

(1) タイテイ。和刻本右訓ヲヨソ。(2) フリヲシテ。和刻本イデタチ。(3) カネノ。和刻本ケンサヲ。(4) カネヲサシ。和刻本タテヨコノシャクヲトリ。(5) ドヲモカモイワレヌ。和刻本カヤウノヤブレタルモノ。(6) ドフシテ(7) ソロソロ。和刻本シヅシヅ。(8) カタワキヘヨセ。

時傍人都道<sup>(1)</sup>、是換錢的<sup>(2)</sup>、叫木匠拿去脩。那料大衆人群中、有棍敢脫此也。及午後、換錢者到。問傍人曰：「我卓厨那裡去<sup>(3)</sup>。」衆合答曰：「你叫木匠拿去脩。匠還說、你吝嗇、何不再做新的、乃脩此破物。彼已負去脩矣。」換錢者曰：「我並未叫匠來。此是光棍脫去。」急沿途而訪問、見空僻處、卓厨剖破。錢無一文。悵悵而歸。

(1) 右訓イフ。和刻本右訓ヲモヘリ。(2) ゼニウリ。和刻本リャウガヘスル(ヒト)。(3) ドコヘイッタ。和刻本ドコヘイ〔ツ〕タ。

按：此棍裝匠而來。大舉大動、大志大言、人那知他是脫。只匠<sup>(a)</sup>人脩舊物、須在作場<sup>(1)</sup>內。何須帶斧帶六尺而來。裝為匠、便非匠矣<sup>(2)</sup>。但他人物件、他人為脩。何人替他盤詰<sup>(3)</sup>。此棍所以得行其詐也。然因此以推其餘、凡來歷不明、而裝情甚肖者、倍宜加察也。

(a) 匹、匠誤。本文は匹。

(1) サイクバ。和刻本サイクバ。(2) 傍注：矣。匠の下と行末に小さな○あり。

(3) キキダイ〔=イダ〕サン。和刻本ギンミ。

## 11. 道士船中換轉金

(卷一 16 a、三類<換銀騙>、明刊本卷一 18 b、和刻本 9 才、第 4 話)

賁監生在南監，期滿將歸，欲換好金數十兩，歸遺妻妾，以將遠敬<sup>(1)</sup>。同鄉鄧監生阻之曰：「京城換金者，屢被棍以銅鑄脫去。金非急用，何必在此換為。」賁曰：「京城方有好金。若有棍能脫我者，亦服他好手段<sup>(2)</sup>。」數日內，換金十餘兩，皆照<sup>(3)</sup>金色交易，都是好金。

(1) ミヤゲ。和刻本ミヤゲ。(2) ヲレヲカタッタナラマコト上手トカンシンセン。和刻本ヨキテナミにアヤマロフ。(3) ギンミ。和刻本ミアハセ、右訓テラシテ。

後有一後生，以金錠十二兩來換。賁生取看，幾有足色<sup>(a)</sup>金<sup>(1)</sup>，問其換數<sup>(2)</sup>。後生曰：「某鄉官命換的，要作五換。」賁遞<sup>(3)</sup>與鄧看。而<sup>(b)</sup>此金可有六換，若五換價公道矣<sup>(4)</sup>。鄧看曰：「果好，可將此金對明收起<sup>(5)</sup>，勿過<sup>(6)</sup>他手。然後對銀六十兩還之。」

(a) 足色、美金名。\*藍書されている。(b) 而、疑曰誤。

(1) 看<sub>三</sub>幾有<sub>二</sub>足色<sub>ナニホドノモノト</sub>金<sub>一</sub>。和刻本「足色」クライ〔キ。品位〕ヨキ。(2)

ナニホドニカヘルト。本文「換」は「撫」。和刻本カユルカズ。(3) ワタシテ。和刻本ワタシテ。(4) ヲカミネダンデヤスイ。和刻本スグナソウバ。(5) メノマヘデカヘトルベシ。和刻本カケアハセトリヲキテ。カケはぶらさげてはかること。(6) ワタス。

賁依言，先收入<sup>(1)</sup>此金，然後還其銀<sup>(2)</sup>。後生不得展轉，只得領銀歸。見其父云，兩監生如此關防，不能再脫出。父頓足曰：「一家生意在此，把本<sup>(3)</sup>子送去了，何以為生。速去訪<sup>(4)</sup>此監生何時歸。」回報已討定船<sup>(5)</sup>，某日刻期登<sup>(6)</sup>舟矣。體探已的<sup>(7)</sup>。

(1) コチラヘトリテ。和刻本トリイレ。(2) コチラノギンヲワタセリ。和刻本「還」ワタス。(3) シゴト。和刻本「把<sub>レ</sub>本子<sub>ヲ</sub>」，「把」左訓ヲ、「本子」左訓モトデ。(4) 送り仮名「へ」。和刻本「訪<sub>ト</sub>ヘト此ノ監生何ノ時ニ歸<sub>ル</sub>」。(5) 回報<sub>シテ</sub>已討<sub>ヲサメ</sub>、定船。「定」の前の点は、潰れているようにも見える。和刻本「回り報（ヘンジ）す、已に船を討定（モトメ）し」。(6) 送り仮名「ト」。(7) ヨクヨクキキアハス。和刻本「體探（キキダシテ）已に的（タシカ）せり」。

至期，兩監生到船坐定。老棍裝為一道士，衣冠淨潔，亦來搭船。舵工收之在船中，共談處。道士言詞雍容，或談及京中官民事體，一一練熟。兩監生及同船諸人亦樂與談。兩日後，將近晚間，道士故提及<sup>(1)</sup>辨珠玉寶貝之法，諸人閒談一番。又說到辨金上去<sup>(2)</sup>，道他更辨得真。賁監生因自誇彼在京換一錠足色金，換數又便宜<sup>(3)</sup>。諸人中有求看估色數者，賁生誇耀，取出與諸人遞觀，皆誇羨好金。遍觀已訖，時天色漸晚，復付還賁生。將收入箱際，道士亦曰：「願借觀。」接過一看，曰：「果好真金。」隨手即付還訖。又道及別新話上去。賁監生收入金，晚飯已熟，各散而餐。次日道士以船錢還<sup>(4)</sup>舵工，與諸人別，而登岸去。

(1) イイダシテ。和刻本イイカケル。(2) ハナス。(3) カッコウ。恰好、ちょうどよい。和刻本カッテニナル。勝手は便利の意。(4) 右訓ハラヒ。

及賁監生歸，以金分贈妻妾。數日後，叫匠人來打釧鈿。先以小錠金打，匠皆稱金好。賁誇曰：「更換有一錠十二兩的，更好。」匠曰：「大錠金，京中光棍多以銅鑄脫人。」賁曰：「取與你看，有何棍能脫我乎。」匠接過手笑曰：「正是銅鑄也。」賁怪之，急取回看，曰：「果銅也。我與鄧相公看定是上好金，又同船諸人看皆是好金，何都被瞞過<sup>(1)</sup>。」忽猛省<sup>(2)</sup>曰：「噯<sup>(3)</sup>，是也。最後是一道士看，付還時天色近晚，我未及再檢視，即收藏箱中，是此時換去也。此道士何得一銅鑄如此相似，又早已在手，如此換得容易。想京中換金後生，即老棍之子。彼換時未能脫，故來搭船<sup>(4)</sup>脫歸也。」

(1) ミトガメ。和刻本ダマサレタゾ。(2) ヨクカンガヘテ。和刻本フトキガツイテ。(3) 右訓：アア。和刻本アア。(4) ノリアヒテ。和刻本ノリアヒ。

按：老棍之脫賁生金也，人謂其棍真高手矣，吾曰：「不然。設若賁生韜藏不露，則老棍雖有諸葛神機，莊周妙智，安能得其金而窺之，何以脫為。故賁在賁生矜誇炫耀，是自招其脫也。噫！」

## 12. 詐學道書報好夢

(卷一 18 a、四類<詐哄騙>、明刊本卷一 20 b、和刻本 23 才、第 11 話)

庚子年、福建鄉科、上府所中諸士、多係沈宗師所取在首列者。人皆服沈宗師為得人。十二月初間、諸舉人都上京矣。省城一棍、與本府一善書秀才謀、各詐為沈道一書、用小印圖書、護封完密、分遞於新春元家<sup>(1)</sup>。每到一家、則云、「沈爺有書、專差小人來。口囑付說、你家相公、明年必有大捷<sup>(2)</sup>。他得異夢、特令先來報知。但須謹密勿洩。更某某相公家、與尊府相近。恐他知有專使來、謂老爺厚此薄彼。故亦附有問安書在。特搭帶<sup>(3)</sup>耳。非專為彼<sup>(4)</sup>來也。」及到他家、所言亦復如是。謂專為此<sup>(5)</sup>來、餘者都搭帶<sup>(6)</sup>也。

(1) ニイ年ガクモンギンミニデル人乃。和刻本ハルノキウダイ (の家)。(2) メシヌカレ。和刻本オホヒナルカチ。(3) デサンイタシタ、和刻本ツイデニ。(4) ユメノコトノ。(5) ユメノコトノ。(6) ショジャウヂサン。

及開書看、則字畫精楷、書詞玄妙。皆稱、彼得祥夢。其兆應在某。當得大魁<sup>(1)</sup>。或借其名、或因其地取義。各做一夢語為由、以報他先兆之意。

(1) ダイーバン。和刻本キウダイノズイイチ。

曾見寫與舉人熊紹祖之書云、「閩省多才、甲於天下。雖京浙、不多讓也。特閱麟經諸卷、無如賢最者。以深沈渾厚之養、發以雄俊爽銳之鋒、來春大捷南宮<sup>(1)</sup>、不卜而決矣。子月<sup>(2)</sup>念二日夜將半、夢一飛熊、手擎紅春花、行紅日之中。止有金字大魁二字。看甚分明。醒而憶之。日者建陽也。熊者君姓也。春花者君治春秋經也。紅亦彩色之象。大魁金字、則明有吉兆矣。以君之才、叶我之夢、則際明時、魁天下、確有明徵。若得大魁出於吾門、喜不能寐。耑<sup>(3)</sup>人馳報。幸謹之勿洩。」

(1) 礼部。(2) 十一月。和刻本シモツキ。(3) スミヤカニ。和刻本ワザワザ。  
\*耑は專に通じ、耑人は用事のため特に派遣された人。

熊舉人之家、閱之大喜、賞使銀三兩。請益。復與二兩曰、「明年有大捷、再賞你十兩。」

及他所奉之書、大抵都述吉夢、都是此意。人賞之者、皆三五金以上。至次年、都鍛南翻<sup>(1)</sup>而歸。諸春元會時、各述沈道之書叙夢之事。各撫掌大笑曰、「真是好一場春夢也。」

(1) メシヌカレズシテ。和刻本ツバサをツイデ。

此棍真出奇絕巧矣。以此騙人、人誰不樂與之。算其所得、不止百金以上。聊述之、以助一笑。

按：此棍騙新舉人。騙亦不痛。雖賞他幾兩銀、亦博得舉家人肚中歡喜四個月。惜此棍不再來。若再為之、人亦樂賞之矣。此騙局中、最妙者。

### 13. 詐無常燒牒捕人

(卷一 20 a、四類<詐哄騙>、明刊本卷一 22 b、和刻本 11 ウ、第 5 話)

長源地方，人煙過千，亦一大市鎮也。有一日者，推命人也，至其間，推算甚精，斷人死生壽夭，最是靈驗，以故鄉里之老幼男女，多以命與算。凡三年內，有該病者，該死者，各問其姓名，暗登記之<sup>(1)</sup>，以為後驗。晝<sup>(a)</sup>往於市卜命，夜則歸宿於僧寺。

(a) 書、晝誤。本文は書。

(1) コレコレノヒトトイフ。和刻本チャウニツケル。

有一遊方道士至寺，形容半槁，黃瘦黧黑，敬謁日者曰：「聞先生推命極驗，敢求此地老幼，有本年命運該死者，當有疾病者，悉以其姓名八字授我，我願以遊方經驗藥方<sup>(1)</sup>幾種奉換。」日者曰：「你不知命，要此何幹<sup>(2)</sup>？」道士曰：「我自有別用。」日者悉以推過之命，本年有該病者該死者，盡錄付之。

(1) コウノウヲココロミタヤクハウ。和刻本「經驗」タメシタル。

(2) ナニナニナサル。和刻本ナンノヨウニタツ。

道士後乞食諸家，每逢癡愚樣人，輒自稱是生無常，奉陰司差，同鬼使<sup>(1)</sup>捕拿此方某人某<sup>(2)</sup>人等，限此一季到。癡人代之播傳，人多未信。又私將黃紙寫<sup>(3)</sup>一牌文，未寫陰司二大字，中間計開依日者所授之老幼，命該死者寫於上半行，又向本寺僧問本地富家男女及人家鐘愛之子，姓名寫於後上層，夜間故在社司前，將黃紙牌從下截無人名處焚化。其上半有人名處打滅存之。次日人來社司祈筭<sup>(a)</sup>，見香爐上有黃紙字，半截未焚者，取視之，都是鄉人姓名，後有陰司字，大怪異之，持以傳聞於鄉。

(a) 筭疑筭誤、筭雜也。和刻本ミクジ。

(1) 同<sub>レ</sub>鬼使<sub>一</sub>。(2) 傍注：某。本文は其。(3) 傍注：寫。本文は「紙」の下に小さな○あり。

不一月間，此姓名內，果死兩人。遂相傳謂前瘦道士，是生無常，此陰司黃紙牌，彼必知之。凡牌中有名者皆來問，無名者恐下截已焚處有，亦往問之。道士半吞半吐<sup>(1)</sup>，認是己同鬼使焚的。由是畏死者，問陰司牌可計免否。道士曰：「陰司與陽間衙門則同，有銀用者計較<sup>(2)</sup>免到，或必要再拿者，亦可挨延二三年，奈何不可用銀也。」由是富家男女，多以銀賄道士，兼以冥財金銀<sup>(3)</sup>，托其計較免到，亦賺<sup>(4)</sup>得數十金去。其後牌中有名者多不死。反以為得道士計免之力也，豈不惑哉。

(1) ハキバキトイハヌ (cf. はかばかし)。和刻本ノミモキラズハキモキラズ。(2) イノチノヒキアテトシテ。引き当て、抵当。和刻本モクロンデ。(3) エンマワウヘノマイナイ。(4) アザムキ、和刻本ダマシテ。

按：陰司拘人，何須紙牌，即有牌票<sup>(1)</sup>，亦何必焚，即焚矣，何為故留殘紙餘字，以揚於衆？此必無之理也。觀瘦無常一節，則惑世誣民昭昭矣。人之信鬼幻者，鑒此可以提醒。

(1) カキツケ。和刻本カミフダ。

#### 14. 詐以箒柄要<sup>(1)</sup> 箒夫

(卷一 21b、四類<詐哄騙>、明刊本卷一 24b、和刻本 25 才、第 12 話)

城西驛上至建溪陸路一百二十里。常箒<sup>(2)</sup>價只一錢六分。或路少行客、則減下一錢四分。或一錢二分亦擡。但先邀箒價入手、便五里一放<sup>(3)</sup>。略有小坡、又放下不擡。大抵坐箒兩分、步走一分。凡往來客旅、無不被其籠絡<sup>(4)</sup>者。

(1) ハヅカシム。本文「耍」(ぜん、ruǎn)、明刊本「耍」、和刻本「要」。\*通算第 23 話参照。(2) 傍注：箒。本文は價。(3) (マ) カゴヲタテル。和刻本ヲロス。

(4) ソノテ。和刻本テニイレラレ。

或當考期、應試士子歸家、箒價便增至二錢四分。至<sup>(1)</sup>少者二錢。不先秤銀<sup>(2)</sup>、不擡。若銀攬到手、不擡上<sup>(3)</sup>二十里、便轉僱上路夫去、把好價尅減<sup>(4)</sup>、只以一分、一舖轉僱他人擡之。其下手<sup>(5)</sup>擡者、仍舊<sup>(6)</sup>五里一放。動<sup>(7)</sup>曰：「我未得時價。」士子不得已、又重加之。但士人往來簡少、都無與校。

(1) 「至」全体に「×」を付ける。(2) ネダンヲサダメ。和刻本「(銀を) カケ」。

(3) ユクコト。(4) ヘラシテ。和刻本ヘヅリトル。(5) コアゲ。\*小揚、駕籠かき的一種。和刻本ヘタナ。(6) 仍舊。(7) 送り仮名：スレバ。

有一提控<sup>(1)</sup>。不時往來於路。屢被箒夫刁蹬<sup>(2)</sup>。一日復要上縣。先把兩條紙、題四句嘲詩、以方紙包之、再用敝箒柄兩箇截齊、以綿紙封之、如兩疋緞樣。次日自負上路。箒夫爭來擡之。提控曰：「吾為一緊急事<sup>(3)</sup>回家。身無現銀。有能送我直到家者、議箒價二錢。又賞汝今晚明早酒飯。若要現銀及轉僱<sup>(4)</sup>、則不能也。」內有二箒夫願擡。遂以兩封段〔=緞〕、縛<sup>(5)</sup>於箒叮嚀、曰：「善安頓之、勿損壞。」纔升箒又曰：「我到回窑街、要寄一急信與人<sup>(6)</sup>。你等到那<sup>(7)</sup>裡、慎勿忘也。」未半午後、已到回窑。提控曰：「你在此暫等<sup>(8)</sup>。我去寄信便來。」其實抽身、從小路歸家。

(1) 官名。和刻本ヒキヤク。(2) 被<sub>レ</sub>箒夫ヲ<sub>ル</sub>シメ<sub>テ</sub>蹬<sub>ル</sub>、和刻本カゴカキにモガリせらる。返り点同じ。\*モガリはゆすりたかりの類。(3) キウヨウジ。和刻本ダイジノヤウジ。(4) コアゲチン。和刻本カへ僱。(5) ククリ。和刻本カラゲツケル。(6) イソギノタヨリヲタノマルル、和刻本キウヤウジを人に与へんと要〔す〕。(7) 右訓ソノ。和刻本カシコ。(8) シバラクマテ。和刻本「暫く等て」。

一飯<sup>(1)</sup>久不来。兩箒夫曰：「他坐話不覺久。有此兩疋紬緞在此。我與你奔回。何須等<sup>(2)</sup>他。」二人疾行、近晚歸家。一曰<sup>(3)</sup>：「各執一疋去。」一曰：「倘有好歹、須相添貼<sup>(4)</sup>。」兩人扯開綿紙。只是兩截敝箒柄、重重封裹。又各有<sup>(5)</sup>一方包。疑是書信。開之見有紙。題大字云：「箒夫常騙人。今也被我騙。若非兩箒柄、險失<sup>(6)</sup>兩疋緞。」二人在家大罵曰：「光棍、精<sup>(a)</sup>光棍<sup>(7)</sup>。」隣家箒夫聞之、入問何故各罵光棍。二箒夫叙其緣由如此。隣箒夫大笑而出。將兩箒柄半封半露、挂於排柵邊、以兩紙詩貼於傍。見者誦其詩<sup>(b)</sup>、又看其箒柄、無不大咲曰：「此提控甚善騙。只你二箒夫、亦不合起歹

心<sup>(8)</sup>。早是徹箒柄、故敢揚言罵人。若果是紬緞、你尚恐人<sup>(c)</sup>知。那<sup>(9)</sup>相公<sup>(10)</sup>、能尋汝取乎。此是你不是。何罵相公為。」

(a) 精。本文も精。ただしどちらも「月」を「日」と書く。(b) 〈言+之〉、同詩。本文は〈言+之〉。(c) 不。本文は人。

(1) シバ〔ラ〕クマテドモ。和刻本メシクウホド。(2) マタン。和刻本「等つことを」。(3) カヘルトソノママ。本文は回。(4) ドチラデモヨイ、タンモノガアルナラバヒトツニシテヤマワケニシヤウ、和刻本もしヨシアシあらば、すべからくツリヲソヘルベシ。(5) 傍注：有。本文は「有」が無く、「各」の下に小○。(6) アブナクソウトシカ。和刻本スンデニ～失はん。(7) ヲカカタリ。和刻本オホカタリメ。(8) 不<sub>レ</sub>合起<sub>二</sub>歹<sub>一</sub>ワルヒココロ心<sub>一</sub>。和刻本アルマジキにワルキココロを起す。(9) 右訓ソノ。和刻本「那んぞ」。(10) ダンナ、和刻本同。

後三日、提控回。見此詩尚貼在排柵、故問居傍人<sup>(1)</sup>曰：「前日、人寄我両疋緞、被兩箒夫擡走。你們<sup>(2)</sup>亦聞得乎。」人知是此提控弄箒夫曰：「你也勿尋緞。那箒夫亦不敢出索箒錢矣。」提控亦大笑而去。

(1) 問<sub>二</sub>居<sub>レ</sub>傍人<sub>一</sub>。和刻本同。(2) トモガラ。和刻本ら。

按：提控騙箒坐者非棍也。此兩箒夫則棍耳。不然、何提控再回詢問、而箒夫不敢出也。此謂借棍術還馭棍徒、亦巧矣。然凡遠出、若僱箒夫挑夫<sup>(1)</sup>、須從店主同僱。彼知役夫根脚<sup>(2)</sup>、斯無拐逃失落之虞矣。

(1) ニンソクヲヤトフ。和刻本コアゲをやとはば。(2) ミモト、和刻本ナリタチ。

### 23. 裝公子套妓脫賭

(卷一 38 b、七類〈引賭騙〉、明刊本卷一 43 a、和刻本 27 ウ、第 13 話)

王荻溪，萬金之子，好賭無厭，多被賭朋合謀。盡傾其家後，收拾餘資，止得三百兩。乃帶一僕，復往縣中賭。眾棍復合本<sup>(1)</sup>迭來與賭。時荻溪家已盡破，而賭亦學得甚高<sup>(2)</sup>，雖未能勝眾棍，亦不至為棍所勝。相持半月餘，無好子弟<sup>(3)</sup>到，無雛家<sup>(4)</sup>可網<sup>(a)</sup>，乃投<sup>(5)</sup>府去，更無大賭場可快意者，遂往嫖<sup>(6)</sup>李細卿家。

(a) 綱、網誤。本文は綱。

(1) ヨリアッテ。和刻本「本を合せ」。(2) ジャウズ。和刻本同。(3) カネモチノコドモ。和刻本ヨイムスコ。(4) バクチニナレヌモノ、和刻本ミジユクナモノ。(5) ユク (6) チョラウ、和刻本ヲヤマ。

有二三賭夥尋至府，聞荻溪已入妓家，眾即畫<sup>(1)</sup>計曰：「如此如此籠絡之，可盡奪其金矣」。次日，候荻溪出外尋賭夥，即入對細卿曰：「荻溪只好賭，不好嫖，彼無厚物與你，今依我如此，如此行先送你二十兩人事<sup>(2)</sup>，後賭得的，每一百兩復許加二抽<sup>(3)</sup>。」細卿許諾。

(1) 傍注：畫。本文は盡。(2) ツカヒモノ。和刻本インモツ。(3) 三ブーヲヤ

ラフ、和刻本サブノウハマへ。本文は「三抽」、和刻本も同じ。＊明刊本は「三」の第一画がほとんど削られているようにも見える。後の描写に、百両の負けに対し抽頭は十余両とあり、「三」では多すぎる。

午設盛饌，方與荻溪入席飲數杯，忽二家人來送禮物，輝煌燦爛，皆上好物件，約值二十餘金，曰：「公子命送此薄儀，少頃便到。」細<sup>(1)</sup>卿逐一看過，盡數收起，以茶待二家人於外，復來席陪荻溪，且喜且作懊惱<sup>(2)</sup>之意。荻溪曰：「是何人送你厚禮，你反似憂悶何故？」

(1) 傍注：郷。「細」の下に小さな○があり、「卿」の字は無い。(2) フサグ。和刻本シンキナ。

細<sup>(a)</sup>卿曰：「不問正難開口，此是黃公子送的，舊年在此賭錢，輸去銀千餘兩，我亦得他厚惠。今日將到，望相公赦我，索<sup>(1)</sup>須出去迎他，容後日多陪相公幾日以補罪。」荻溪曰：「既是公子，我便出外讓他。」細卿喜曰：「相公如此<sup>(2)</sup>寬容，是妾有二天<sup>(b)</sup>也。」荻溪將拂衣起，細卿挽住曰：「少坐不妨，更有一件，此人極活潑<sup>(3)</sup>，無崖岸<sup>(4)</sup>。少間乘機提起<sup>(5)</sup>，若請相見，或在此同話為我陪客，得借重高賢<sup>(6)</sup>，亦為我增聲價也。」荻溪本欲避席，只聞公子舊在此賭，心中早已喜十分，使一僕伏侍<sup>(7)</sup>，在內獨酌，叫細卿出外迎客。

(a) 下故、細誤。本文は故。(b) 夫、天誤。本文は夫。

(1) モトメ。和刻本ナニトゾ。(2) 「此」傍注「下」、「如」傍注「上」。本文は「此如」。(3) キガヒロク。和刻本サバケモノ。(4) ムツカシイコト。和刻本ヘダテ(5) ザシキノミヤゲデヨビイダス。和刻本ヤウスヲミテイヒダシせん。(6) 借重高賢。和刻本同。(7) ヒトバデトリテヤラウ。本文の「僕」は撲。和刻本ソバヲキニ。

須臾公子到，細卿從容奉茶，敘寒溫訖。公子逕起，欲入內遊玩，細卿慌忙請止曰：「適有一外親遠來，在內留一水飯<sup>(1)</sup>，恐無處可避也。」公子笑曰：「孤老便是<sup>(2)</sup>孤老，何須托外親也。既是你情人，我生平不吃醋，便請相見何妨。」即遣二僕入請，尚未出，又促細卿曰：「汝去請之。」細卿入內邀出。公子張看<sup>(3)</sup>荻溪，一表<sup>(4)</sup>非俗，呵呵笑曰：「細卿妙人，果會擇好才子。」即降前敘禮。

(1) ユヅケヲクハスル。(2) ミドモトシヨレバゼヒガナヒ(身共年寄れば是非が無い)。和刻本タイジンハ便ち是れ。(3) ミテ。和刻本キットミ。(4) スガタ、和刻本ヒトキハ。

院內備筵<sup>(1)</sup>已到，公子坐上，荻溪前<sup>(2)</sup>，細卿左陪。席間談笑，並不及賭中去。至晚，索骰仔行令<sup>(3)</sup>，公子耍<sup>(4)</sup>曰：「只恐卑人未曉好色<sup>(5)</sup>。」細卿曰：「公子有一擲百萬之豪，荻卿亦有呼盧賜緋<sup>(6)</sup>之興，媿小婢未足當好色耳。」公子曰：「荻溪亦作家<sup>(7)</sup>乎？略賭，明早<sup>(8)</sup>一東道<sup>(9)</sup>何如？」荻溪曰：「東道當小弟奉，何勞賭也。」公子曰：「空食<sup>(10)</sup>未佳<sup>(a)</sup>，須贏<sup>(11)</sup>得為奇。」先取擲之，無色<sup>(12)</sup>，荻溪一擲即勝。

公子須再加一台戲，又輸，熱性<sup>(13)</sup>一起，曰：「荻溪有此妙手乎？與汝再決輸贏。」荻溪曰：「不敢扳高耳<sup>(14)</sup>，亦願陪兩下。」賭起互有勝負。至一更<sup>(15)</sup>，公子輸上百金，細卿亦抽頭<sup>(16)</sup>十餘兩矣，即將骰子收起<sup>(17)</sup>，曰：「今日乘簫<sup>(18)</sup>勞頓，夜已深矣，須去睡，明日看戲時，酒席中再翻<sup>(19)</sup>，稍抬舉<sup>(20)</sup>我抽頭。」

(a) 住、佳誤。本文は住。

(1) サケサカナ。(2) 到<sub>二</sub>公子坐上荻溪前<sub>一</sub>。和刻本：到，公子坐上，荻溪前。(3) サイヲフリテサケヲノム。(4) 右訓ハヂテ。\*通算第14話「詐以箒柄要蕎夫」のタイトルで「要」を「奕」と書いている。和刻本タハムレテ。(5) ヨイメ。和刻本ヨイ目。(6) サイヲヨクツカフ。(7) バクチウチダ、和刻本ソレシヤ。(8) アス、和刻本アスノアサノ。(9) マカナヒヲスル、和刻本テイシュカタヲ。(10) タダクウテ、和刻本ムダニクラフハ。(11) カチ。和刻本カッテカラガヨカラウ。(12) メガデズ。(13) ハラヲタッテ。(14) ヲアイテニナラヨ。(15) ヨルイツツドキニ。(16) シウギ。和刻本ウハマヒトル。(17) 細卿サイヲシマウテ。和刻本カタヅケ。(18) ヲカゴニメシテ。(19) マタオサラバ。和刻本マタシカヘシセヨ。(20) マタヲヒライモウス。

公子以輸多，發怒要賭。荻溪亦發大言曰：「若再來，須百金一堆<sup>(1)</sup>，不然且罷。」公子先取定銀，在以一百為堆，細卿故<sup>(2)</sup>執骰不與。公子大怒曰：「只憑一擲，隨有無便罷。」細卿付還骰，公子一擲即勝，得百金，曰：「更照前一堆<sup>(3)</sup>。」又勝。曰：「吾生平好大不好細，須二百為堆。」方發性間<sup>(4)</sup>，門外火把簫來，慌入報曰：「老爺跟<sup>(5)</sup>尋至急，可速回去。」公子曰：「我色方來<sup>(6)</sup>，奈何阻我興。」其後一擲，又贏。二百為堆。家人催如星火，公子曰：「我明日晝間不來，夜定來矣。」荻溪留之不能得。

(1) ヒトハリ（堆は推）。和刻本ヒトカタメ。(2) ワザワザ。(3) 左訓は喉に当たるため読めず。和刻本マヘノトヲリ一推。(4) シャウブニカカルトキ。和刻本ハラダチノトキ。(5) ツイテ。和刻本アトヲタヅネ。(6) カチガノリテキタニ。和刻本サイサキヨクナル。

細卿亦驚作癡呆樣，慌忙送別。歸怨荻溪曰：「人無全勝，你先贏許多，須當知止，奈何公子欲翻，你更出大堆<sup>(1)</sup>，是不曉避色也<sup>(2)</sup>。空作慣家<sup>(3)</sup>，不及我婦人見矣。」荻溪曰：「吾萬金賭盡，何數他三百兩，有甚大事，空怨恨為。」在細卿家留宿數日，再留之，堅辭而去。

(1) 奈<sub>下</sub>何公子欲翻你、更出<sub>中</sub>大堆<sub>上</sub>。和刻本：奈何公子欲<sub>レ</sub>翻、你更出<sub>二</sub>大堆<sub>一</sub>。(2) ヤウスヲミルコトヲ。(3) バクチナレテ。和刻本スイホウ（すいはう、粹方）。

按：公子是裝束<sup>(1)</sup>的，先以厚禮送妓，令荻溪信為真公子，後來圈套<sup>(2)</sup>，皆是裝成。其藥骰已先藏在細卿手，故令其搶起真骰，然後以藥骰<sup>(3)</sup>付還之，使其不疑，三執皆勝，套定催歸，其誰防之。然荻溪雖作家，安能測其弊哉。吁！凡賭博者，弊處生弊，鑒<sup>(4)</sup>此而知機，收手勿賭，真良策也，莫如彼之一旦盡囊而空矣。

(1) ニセモノ。和刻本ツクリモノ。(2) クフウヲシテ。和刻本モクロミ。(3) デメサイ。和刻本クラザイ。(4) 傍注：弊。本文は〈改+卅〉。

## 27. 盜商夥財反喪財

(卷二 4 b、九類<謀財騙>、明刊本卷二 5 b、和刻本 31 ウ、第 14 話)

張沛，徽州休寧人，大賈也。財本數千兩，在瓜州買綿花三百餘擔。歙縣劉興，乃孤苦貧民，一向出外，肩挑<sup>(1)</sup>買賣，十餘載未歸家，苦積財本七十餘兩，亦到此店買花。二人同府異縣，沛一相見，鄉語相同，認為梓里<sup>(2)</sup>，意氣相投<sup>(3)</sup>，有如兄弟焉。花各買畢，同在福建省城陳四店賣，房舍與沛內外。

(1) カツギ。和刻本ニナヒ。(2) コキヤウ。和刻本コキョウ。(3) ココロヤスク。

數日後，興花賣訖，沛者止賣小半，收得銀五百餘兩。興見其銀，遂起不良念，與本店隔鄰孤身一人趙同商議：「我店一客，有銀若干，你在南台討盪船等候，待<sup>(a)</sup>我拿出<sup>(1)</sup>來即上船去，隨路尋一山庵去躲<sup>(2)</sup>，與你均分。」趙同許諾。興伴<sup>(b)</sup>謂沛曰：「我要同一鄉親到海澄，買些南貨，今尚未來，要待幾日。」

(a) 侍、待誤。本文は侍。(b) 伴、伴誤。本文は伴。

(1) 出は補記。「拿」の下に小さな○あり。(2) カクレ。和刻本同じ。

一日，有客夥請沛午席<sup>(1)</sup>，興將水城<sup>(2)</sup>空開，將沛衣箱內銀五百餘兩，悉偷裝在自己行李擔內，倩顧一人，說是鄉里來催，欲去之速。興伴曰：「行李收拾已定，奈張兄<sup>(a)</sup>人請吃酒，未<sup>(3)</sup>能辭別。」沛家人曰：「相公一時未歸，我代你拜上<sup>(4)</sup>。」興即辭主人陳四，陳四亦老練牙人，四顧興房，興所空水城，已將物蔽矣。僱夫伴擔海口去，旋即賣蹤轉南台，乘盪船上水口。

(a) <ト+兄>、疑兄誤。本文は<ト+兄>、克に似た字。

(1) ヒルノメシ。和刻本ヒルハン。(2) 將<sub>レ</sub>水城<sub>一</sub>。和刻本：將<sub>レ</sub>水<sub>ハシ</sub>城<sub>一</sub>。

(3) 奈<sub>レ</sub>張兄人請吃酒未<sub>レ</sub>能辭別。和刻本：奈<sub>下</sub>張兄人請吃<sub>レ</sub>酒未<sub>上レ</sub>能<sub>レ</sub>辭別<sub>一</sub>。(4) ヨイヤウニモウサウ。和刻本コトヅテ。

及沛回，陳四曰：「貴鄉里已去矣，託我拜上相公。」沛開房門，看衣箱空一刀痕，遂曰：「遭瘟<sup>(1)</sup>。」待開看，銀悉偷去，四顧又無蹤跡。陳四入興房細看，見水城空開，曰：「了事不得，今無奈了<sup>(2)</sup>。但相公主僕二人，可僱四名夫直到海澄，我同一大官，更邀七八人，討一盪船到水口。」於是陳四往上尋船。

(1) ヤクビャウガミアフ。和刻本ヤクビャウにあへり。「あへり」は右訓。(2) ナントモシヤウアルマイ。和刻本スベキヤウナシ。

至半午後，有船下水來者，問曰：「你一路下來，見一盪船載二人有行李三擔上去，趕<sup>(1)</sup>得著否？」稍子<sup>(2)</sup>曰：「有三人行行李三擔在水口上岸去矣。」盪船趕至將晚到水口，並未見一人來往。少頃間，見二牧童看牛而歸，問曰：「前有三入，行李三擔，小官見否？」牧童曰：「其三人入上源壠去矣。」問曰：「那<sup>(3)</sup>山源<sup>(4)</sup>有甚鄉村？」曰：「無。只有一寺，叫做上源寺。」陳四將銀五分僱一牧童引路，逕至其寺。時將三鼓矣。陳四

曰：「我等叫他開門，他必逃走。我數人分作兩半，一半守前門，一半守後門。天明，僧必開門，我等一齊擁入，彼不知逃，方可捉得。」眾曰：「說得是。」

(1) 見<sub>上</sub>一盪船載二人有行李三擔上去趕<sub>上</sub>。和刻本：見<sub>下</sub>一盪船載<sub>上</sub>二人<sub>上</sub>有<sub>上</sub>行李三擔<sub>上</sub>上去趕<sub>上</sub>。(2) フナコ。和刻本同じ。(3) コノ。和刻本カノ。(4) ヲク。和刻本ヤマナカニ。

及僧開門，眾等擁入。和尚驚曰：「眾客官那裡來的？」陳四乃道其故。即問：「那三人是甚<sup>(1)</sup>時候到寺。」僧曰：「到時天色已晚，在那一樓房宿。說他被難，至此逃難。」僧引入，齊擁擒獲。見其將沛之銀，裝作一擔，白銀七十餘兩，以鼠尾袋裝，另藏在身，悉皆搜出。三人跪下求饒：「是我不良，將他銀拿來，他者奉還他，我者乞還我。」眾等不聽他說，將石頭亂打半死，行李盡數搬來。三人同繫至陳四店內。沛時往海澄尚未歸矣。是日客伙與地方眾等，豈止數千人看，興之廉恥盡喪。

(1) 傍注：甚。「是」の下に小さな○あり。

後數日，沛歸，謂興曰：「為你這賊，苦我往返海澄一遭，今幸原銀仍在，我也不計較你。今後當做好人。若如汝見，定要呈官究治。」興曰：「須念鄉里二字。」曰：「若說鄉里，正被鄉里誤矣。我念前日久與之情不計較你，你急前去。」興曰：「我銀乞還我。」但興銀卻被眾等拿去。沛因叫眾等拿還他<sup>(1)</sup>：「我自謝你。」眾人曰：「這賊若告官論，命也難保。今不計較，反敢圖賴。」眾人又欲毆他，沛勸乃止，謂興曰：「你心不良，所為若此，今反害己，不足恤也。但我自推心，將銀五兩，與你作盤纏。」興且感且泣，抱頭鼠竄而去。

(1) アレガ銀ヲカヘサレム。

噫！久旱甘雨，他鄉故知。客於外者，一見鄉里，朝夕與游，即成綢繆之交，有如兄弟者，人之情也。沛之與興，以同郡鄉人，又同茲貿易，與之共店託處，亦處旅者之勢然也。何興之包藏禍心，同室操戈，利其財而盜之。彼之暗渡盪船，自謂得計，豈知天理昭彰，奸盜不容，卒之擒獲叢毆，噬臍無及，數十年苦積七十金，一旦失之，圖未得之財，喪已獲之利，何其愚也。予深有慨焉，故筆之以為奸貪喪心者戒，而因告商者之宜慎，勿如鄉里之為盜者誤也。

### 31. 公子租屋劫寡婦

(卷二 13 b、十類<盜劫騙>、明刊本卷二 15 b、和刻本 35 ウ、第 15 話)

會城中，每逢科試之年，各府舉子到者極多。不論大小房屋，舉子俱出重租，暫僦以居。東街王寡婦，其先得丹穴，擅利數世，積鏹鉅萬，名聞於人。止生二子，一弱冠，一垂髻<sup>(a)</sup>，內止一丫頭，外用一僕代管家，一小廝供役使，不過五六人家口。其廳堂高敞，房舍深廣，其外廂每科租與舉子居，常收厚利。

(a) 〈髟+告〉、髻誤。本文は〈髟+告〉、「髻」に似た形の字。

辛卯七月初，舉子紛至。忽有二家僕，冠服齊楚<sup>(1)</sup>，來擇屋居。王管家引其看，左

右廳房，皆清幽潔淨。二家僕曰：「此屋光明寬大，可中公子意。我全租之，不可再租他人。敢問租金多少？」王管家曰：「往年眾人共租金，常二十兩，今你一家租，人少不亂雜，只十五兩亦可。」二家僕還十二兩，即以現銀付訖。一僕出引公子，乘四簞帶四僕，併一小廝來，行李五六擔，皆精好物件。到即以土儀送家主，又值銀二三兩。王寡婦曰：「往年舉子送人事，皆淡薄，今這公子，真方家<sup>(2)</sup>手面。」

(1) エンハウ（遠方）ノヒト。和刻本リッパ。(2) ホンノシカタ。和刻本ヲヲヤウ。

次日命管家排大筵席，敬請公子。二子出陪，公子放懷歡飲，二更方散。

又次日公子遣家僕叫廚子來做酒回席，一席請二幼主，一席送入內堂與主母飲。叫其丫頭邊陪，命一小廝入灑酒侍奉。一小席待兩管家者，四僕陪之。各飲至二更。公子曰：「帶來的酒，開來飲。」少頃暖至，其酒味香甜，又不甚嚴，極是好飲。公子斟兩大杯，奉二子，曰：「此酒略爽口，各奉三杯。」二子各領飲。小廝在內，亦斟與主母飲，四僕亦勸兩管家飲。

二更已盡，齎發<sup>(1)</sup>廚子去，收拾閉門訖，其後所奉酒內放陀陀花，其藥性到，將一家人皆昏倒。假公子並六家僕，將寡婦等綁住<sup>(2)</sup>，夤夜搜其財物，盡數收拾作五六擔。晨鐘一鳴，開大門，公然挑去，並無<sup>(3)</sup>人知。

(1) ダイヲハラフ。和刻本モノヲヤリイナス。(2) ククル。和刻本シバリツケ。(3) 傍注：無。本文は人、左側に削除記号「=」。

次日至午，左右鄰居，見其門大開，無一人來往，相邀入看，一家人皆被網倒，如醉未醒。曰：「此必中毒被劫。」急代請醫，解去其毒，方醒，乃言被假公子租屋投毒，夜劫。及尋究之，茫無蹤影矣。

按：科舉租屋，歷科皆然，誰知有大棍行此術。其欲獨租，不令租他人，猶是常情。惟初至時送厚人事，主必設席相待，理固然也。旋即回席，又且甚豐，一家婢僕皆有酒，即有意投毒矣。善察者於送人事時，猶是難察，惟一家大小，皆有酒席相待，此處宜參透<sup>(1)</sup>之。彼以客回主席，何必併及內外貴賤人哉。然孀婦女流之輩，二子黃口娃兒。若兩管家者，彼能以是而豫防之，則棍何得而行劫乎。

(1) カンガヘスカス。和刻本ミヌク。

### 35. 膏藥貼眼搶元寶

(卷二 19 b、十一類<強搶騙>、明刊本卷二 22 a、和刻本 8 才、第 3 話)

縣城有一銀匠，家頗殷實。解戶<sup>(1)</sup>領秋糧銀，常托其傾煎<sup>(2)</sup>。一日傾煎元寶，心內<sup>(3)</sup>尚有系<sup>(4)</sup>未透處，夜間又煮洗之。其鋪門有一大縫<sup>(5)</sup>，外可窺見其內。一棍買一大膏藥，夜間潛往窺之。見其把兩元寶洗訖，放於爐邊。棍在外作叫痛聲，呼曰：「開門。」銀匠問曰：「是誰？」棍外答曰：「被賊坯打<sup>(6)</sup>得重，求你爐邊，灼一膏藥貼之。」銀匠開門與入。

(1) トリタテビト。和刻本ヤクシヨ。(2) イロヅケ。和刻本イロヅケル。(3)

マンナカニ。和刻本ウチ。(4) タカキ。\*田搔きの意か。和刻本スジ。(5) アワセメ。和刻本スキマ。(6) ヌス〔ビ〕ビト〔ニ〕ウタル〔ル〕ノチ。和刻本ワルモノにタタカレテ。

棍作癩<sup>(a)</sup>(<sup>1</sup>)行狀，且手戰呼痛，蓬頭<sup>(2)</sup>俯視，以一大膏藥，在爐邊灼開，把<sup>(3)</sup>兩手望銀匠當面一貼，即搶一元寶以逃。銀匠不勝熱痛，急扯下膏藥，元寶已被其竊一去矣。急叫有賊，且出門追趕，不知從那路去，彷徨<sup>(b)</sup>追過數十步，只得悵悵而歸。

(a) 癩、(疒+林+肉)誤。(b) 〈禾旁〉〈彡皇〉、徬徨誤。

(1) ツカルル。和刻本テアシヤメルモノノヤウス。(2) カシラヲサゲ。和刻本カミサバキ。\*髮捌き。捌き髮、散らし髮。(3) カウヤクヲヒッパッテ。

按：此棍裝痛呼門，及爐邊灼膏藥，情果難察，但元寶重物，須先收藏，然後開門，則可無失矣。後人觀此，凡有銀在身者，皆不可輕容異色人得近傍也。

#### 41. 帶鏡船中引謀害

(卷二 27b、十二類<在船騙>、明刊本卷二 30b、和刻本 38 才、第 16 話)

熊鎬，章富人，乃<sup>(1)</sup>世家子也。力足扼虎，兼習棍棒，嘗夜月挾二婢往後園，遇一虎跳牆入，即退入家，各持鋼叉大杖出。虎對面<sup>(2)</sup>撲來<sup>(3)</sup>，鎬以叉<sup>(a)</sup>抵，順放於地<sup>(4)</sup>，急打一下。虎復再撲，鎬又又放之，再打一下，虎遂回身而去。鎬從後趕<sup>(5)</sup>打，虎為之倒。疾呼二婢曰：「速來助。」二婢各以大杖對鏖之<sup>(6)</sup>，虎立死杖下。時稱之曰：「打虎鎬四官。」

(a) 子了誤。本文は叉を子とする。

(1) 送り仮名チ。弱々しい書きぶりで他の墨書と異なる。(2) 右訓ヨリ□。弱々しい書きぶりで他の墨書と異なる。(3) トビカカル。和刻本ウチ来る。(4) チニスワリテ。(5) 從レ後趕<sup>レ</sup>打。打に送り仮名なし。弱々しい書きぶりで他の墨書と異なる。和刻本：從<sup>レ</sup>後<sup>レ</sup>趕<sup>レ</sup>打<sup>ツ</sup>。(6) ムシャウニタタク、和刻本コロス。

後思遍遊各勝處，故脫<sup>(1)</sup>兄云：「將出外買賣。」兄阻之曰：「汝剛而無謀，莫思撰錢<sup>(2)</sup>，還恐生禍。」鎬曰：「老僕滿起，有力多智，與我同去何妨？」兄不能阻。鎬帶百餘金行，曰：「吾出外，相機置貨<sup>(3)</sup>，雖不得利，豈折本乎<sup>(4)</sup>？有誰人欺得我者。」及遊浙粵，有貨可買者，僕滿起曰：「此價甚廉，買歸，必得利。」鎬曰：「吾遠到此，未遍覽此中景致，若遂置貨，安能輕身自由。」僕累稟<sup>(5)</sup>幾次，皆不見聽。知其志在浪遊，不思利也，後只任之。主飲亦飲，主行亦隨。

(1) ダマシテ、和刻本同。(2) ゼニマウケ、和刻本：錢をマウケルこと(を)。

(3) ヤウスヲミテカヒコム。(4) モトデヲソンシヤウヤ。和刻本：豈に本をソンスル乎。(5) ススメルコト。和刻本：右訓まふすこと。

不半年，本去三分之二矣。起復曰：「不歸將無盤纏<sup>(a)</sup>。」鎬曰：「本雖少，亦要<sup>(1)</sup>置些貨歸，可當遠回人事相送<sup>(2)</sup>者。」又挨兩月，到湖州，起又催歸。鎬曰：「買何物

好？」起曰：「筆墨上<sup>(b)</sup>好。」鎬曰：「不在行，不會揀擇<sup>(3)</sup>，恐受人虧。亦須更買甚物，與母嫂及我妻者，銀本已折，省他輩多口。」起曰：「綢緞、鏡好。」鎬曰：「綢緞無多本<sup>(4)</sup>，不是這般客<sup>(5)</sup>。不如買十兩筆墨。十兩鏡罷<sup>(6)</sup>。」起曰：「亦好。」催趲<sup>(7)</sup>買歸，只兩小箱。鎬曰：「此貨甚妙，又簡便易帶。」

(a) 纏。本文は〈糸+呆〉。(b) 土、疑大誤。本文は土。

(1) 右訓モトメモトメテ。本文は要要。(2) チガツ [=カヅ] キノハナムケ。和刻本ミヤゲ。(3) アルクトコロノモノデナクメキキモシラズ。和刻本：フカウシャミワケルコトガナラヌ。(4) カネスクナク。和刻本モトデガナイ。(5) コノタビノヒト……。和刻本カヤウノアキンド。(6) 傍注：罷。「鏡」の下に小さな○あり。(7) ハシリ。

及到江邊搭船，柁公見財主<sup>(1)</sup>威儀，家人齊整，奈何行李，只兩小箱。及接入船中，覺箱中鎮重，想必盡是銀也，故以言動問曰：「客官<sup>(2)</sup>從何來？亦不多買些貨物。」鎬以本少，恐客商見輕，故謊<sup>(3)</sup>言：「吾家兄敝任在湖廣，吾從任中歸，未買得甚貨。」柁公曰：「原來是大舍<sup>(4)</sup>。」又見家人伏侍恭敬，每呼主為相公，使用皆大手面<sup>(5)</sup>，不與諸商一類，以此益信為真官舍，船中人皆敬讓之。

(1) カネノアルジ。(2) ヲマヘサマガタ、和刻本ヲキヤクサマガタ。(3) タハゴトニ、和刻本イツハリ。(4) タイカ、和刻本ヲレキレキ。(5) ヲヲデニツカフ、和刻本オホヨウ。

及到岸，諸商都搬起船。柁公獨留熊大舍曰：「船中客官多，未能伸敬。今將備一杯酒，敬請大舍。」即上岸，多買嘉餚美酒。夜間勸飲，甚是慇懃。熊鎬寬心放飲。柁公又苦勸家人<sup>(1)</sup>酒。滿起心知其非好意，初詐推不飲，後難禁其勸，亦飲數杯，推醉去睡。熊舍憑柁公勸飲，真醉不醒事。

(1) ケライニ。

起俟其睡熟，即起對柁公曰：「吾非真醉，今將近家，心中憂悶，吃酒不下耳。此相公酒色之徒，大相公在任中，將幾百兩銀打發他歸，在路上嫖用都盡，只帶得幾把筆、幾面鏡，歸與侄子輩作人事耳。明日太老爺歸必責我不能諫阻。世有此人，見酒如糖，又好誇口，怎麼諫他。我試開兩箱與你看，其中那有厘銀。」即取鎖匙開兩箱，惟筆與鏡，並無銀兩。起取兩面鏡送柁公，曰：「一路來多蒙照顧<sup>(1)</sup>，各送一鏡與你用。」柁公曰：「主物不可擅送人。」起曰：「拿一半去，他也理不得。到家後，那曉得數。」復鎖住箱，與柁公去睡。起一夜提防。

(1) ヲセワニナッタ。和刻本：多くヲセハを蒙〔る〕。

次日上岸，熊曰：「難得柁公如此好意，再賞他銀一錢。」

及歸家，起曰：「可數過鏡，勿令有失。」鎬檢過曰：「更失兩面。」起曰：「吾將這兩面鏡，換你我兩顆頭歸，主人尚未知乎？」鎬曰：「你何狂言。」起將船中勸飲事，一一敘之，曰：「彼非欲謀害，將別之人，何如此更費酒饌，若慇懃乎？」鎬驚曰：「是也。」

非爾知事，險喪二命耳。」一家人聞之皆喜，重賞滿起。

按：鎬本膏梁之子，以縱性為快，以誇口為高，那知世路之險。若非滿起心明，輕以二命付魚腹耳。凡遠行者，主若疏漏，得一謹密家人亦大有益。故旅以喪童僕為厲，以得童僕為吉，聖人係旅之義大矣哉！

#### 43. 脚夫挑走起船貨

（卷二 31 b、十二類〈在船騙〉、明刊本卷二 35 b、和刻本 41 ウ、第 17 話）

建城溪邊，凡客船到岸，眾脚夫叢集，求僱擔代挑入城。有老成客，必喝退眾夫，待船貨齊收上岸，都數紀定，然後分作幾擔，叫幾名脚夫，自相識認，乃發入城，急令人跟行其後，方保無失。若雛家到，眾脚夫不管物件檢齊否，即為收括上擔，及急跟夫去，多致遺物在船中未盡收。

有侯官縣，一田<sup>(a)</sup>秀才出外作館，年冬歸，得束金四十餘兩，衣被物件，亦十餘兩，共作兩大籠。經過建城，欲入拜鄉親，命一脚夫挑籠先行。田乃儒家，從後緩步隨之。脚夫見其來遲，一步緊<sup>(1)</sup>一步，攢<sup>(2)</sup>入城門，人鬧攘處，更是疾行，遂挑入曲巷逃走。田從後雖叫止步，那能止得。入城曲巷多歧，何處可尋。

（a）甲田誤。本文は甲。

（1）シッカリトアユミ。和刻本：一步、一步より緊（右訓きびしく）。（2）コアシニアユム。和刻本：右訓つき（入る）。

次日往府呂巡捕呈之。呂捕衙是精明官，以脚夫拐物，須用脚夫查之。即叫二差人來：「你認定這田相公，今午後穿白長衫，在船中行李到，必有脚夫挑走，你二人從後密跟到他家拿來。」再對田秀才曰：「你今再討假行李一擔，在十里外搭船來府，照前日到岸時，叫脚夫來挑。你穿白長衫去，此兩差人易認。若已在傍，你故意緩行，任此脚夫挑去，必能拿得前脚夫矣。」

秀才未會其意，即日下午備行李，從十里外搭船到，見此兩差人在傍，各相認得，故叫脚夫挑行李，從後緩隨脚夫，果然挑走。二公差遲迤跟到家，拿住，曰：「呂爺叫你。」脚夫黃三不知來歷，只得隨往。呂爺曰：「你緣何挑走秀才行行李？」黃三驚曰：「只暫寄我家，便欲送還。」官止喝打五板，田秀才方到衙。呂爺叮嚀黃三曰：「今日且饒<sup>(1)</sup>你罪。這相公昨日被脚夫挑走一擔籠，限你兩日，代跟究來，若尋不出，定坐你賠。」黃三曰：「河下挑夫兩日換一班<sup>(2)</sup>，昨日不是我輩。」呂爺曰：「你即跟究昨日的。」

（1）ユルス。和刻本：右訓ユルス。（2）クミ。和刻本ヒトクミ

黃三密訪兩日，不能得。第三日公差來拿，到半途見一脚夫柳五，將銀三錢換錢用，隨即買魚肉等歸家。黃三再拿到衙，稟曰：「並訪不得，只今遇柳五換錢，多買魚肉，事有可疑。」捕衙立差四人，同田秀才、黃三直往柳五家搜，只一間小房，搜果見贓。拿到捕衙柳五供曰：「銀物現在，前五日未敢出門，今日止用銀三錢，換錢買物作歡。拐盜<sup>(1)</sup>是實。」捕衙發打二十板，曰：「你二脚夫拐盜客貨，各該擬徒<sup>(2)</sup>。但黃三捕出柳五，以此贖罪，再打十板釋放，以懲後日。姑念柳五窮漢，只擬不應罪，納完發放<sup>(3)</sup>。」

再叫田秀才具領狀來，盡將原物領去。不數日，拿得真贓正犯，非有治才，安能如此哉。

(1) ブッタクリ。和刻本カスメトル。(2) ドウルイ。(3) ノコラズカヘシテ。和刻本ミナトリカヘシオイハナチ。

按：腳夫挑走貨物，處處有之，故出行最宜慎防。若呂捕衙之發奸，得捕盜不遺餘力者，全在以腳夫查腳夫一著，所謂以蠻夷攻蠻夷，是也。又諺云，賊拿賊，針挑刺，亦此意也。僱夫者，可以為戒，捕盜者，可以為法。

#### 44. 偽粧道士騙鹽使

(卷二 34 a、十三類<詩詞騙>、明刊本卷二 38 a、和刻本才 1、第 1 話)

唐寅、字伯虎，又字子畏。南京吳趨<sup>(a)</sup>里人也。中弘治戊午南京解元。因事被黜之後，遂放浪不羈，流留花酒<sup>(1)</sup>。善詩文，畫極工。與文徵明、祝希哲等為友，皆極一時之名流也。日遊平康妓家，滑稽為樂，隨口成文。

(a) 鉛汞按、吳超吳趨誤、趨趨略字。本文は吳超。

(1) チョラウ。和刻本イロトサケ。

有一皂隸，携紙一張求畫。伯虎援筆，畫螺<sup>(1)</sup>螭十餘個，題詩於上云：「不是螭蚌<sup>(2)</sup>不是螳<sup>(3)</sup>，海味之中少此名。千<sup>(a)</sup>呼萬呼呼不出，只待人來打窟臀。」眾皆大笑。

(a) 干誤。本文は干。

(1) 右訓：○ミナ。和刻本：右訓ホラガイ。(2) 右訓：○カザミ。和刻本：左訓オホカニ。(3) 右訓：○マテ。和刻本：ハマグリ。

偶一日出，見縣前枷一和尚。眾人請曰：「可將此和尚，作詩一首。」伯虎詢知和尚被枷緣由，援筆題於枷上曰：「皂隸官差去採茶，不要文銀只要賒，縣裏捉來三十板，方盤托出大西瓜。」知縣送客出來，見之，問是何人所作。或以伯虎對。即將和尚釋之。其捷於口才，大約類此。

一日，與祝希哲等十數輩，携裝遊維揚。日與妓者飲酒，聲色為樂，將及一月，費用殆盡。希哲曰：「黃金用盡，作何計策乎。」伯虎曰：「無妨。當今鹽使者，貲財巨萬。我和你二人，可假扮<sup>(1)</sup>女貞觀道士以化之。」

(1) マネヲシテ。和刻本：右訓カリニイデタチ。

二人即扮道士，值鹽使者升堂。二人俯伏階下云：「女貞觀道士參見。」鹽使者大怒曰：「豈不聞御史臺風霜凜凜<sup>(1)</sup>耶。是何道者，敢此無狀。」將撻之。二人徐對曰：「明公以小道<sup>(2)</sup>為遊方覓食者耶。小道遍遊天下，所交者，皆極海內名流。即如吳邑唐伯虎、文徵明、祝希哲輩，無不與小道折節為友。凡詩詞歌賦，應口輒成。明公如不信，願奏薄技，惟明公所命。」

(1) キビシイハットヲ。和刻本イセイノキビシキ。(2) ワタクシドモ。和刻本ワタクシ。

鹽使者乃指堂下石牛為題，命二人聯詩一首。伯虎應聲即吟云：「嗟峨怪石倚雲邊。」哲云：「拋擲於今定幾年。」虎云：「苔蘚作毛因雨長。」哲云：「藤<sup>(a)</sup>蘿穿鼻任風牽。」虎云：「從來不食溪邊草。」哲云：「自古難耕隴上田。」虎云：「怪殺牧童鞭不起。」哲云：「笛聲斜掛夕陽烟。」

(a) 〈++勝〉、藤誤。本文は 〈++勝〉。

鹽使者<sup>(1)</sup>覽畢，霽色問曰：「詩則佳矣。將欲何為。」二人曰：「頃者女貞觀圯壞。聞明公寬仁好施。願捐俸金修葺，以成勝事，亦且不朽。」鹽使者大悅，即檄吳興二縣，可給庫銀五百與之。

(1) 傍注：者。「使」の下に小さな○あり。

二人見鹽使者應允，速夜<sup>(a)</sup>赴吳興。假為道士說關節行狀，對吳興二縣云：「今有鹽使者，修葺女貞觀。此係盛舉。可即依數與之。不可寬緩。」吳興二縣，果如數與之。二人得銀大悅曰：「不將萬丈深潭計，安得驪龍領下珠。」復往維揚，聚交遊十數輩，於妓者家，歡呼劇飲，縱其所樂。不十數日，五百之金，費用殆盡。

(a) 鉛汞按速夜連夜誤。

後，鹽使者按臨吳興，束衣冠，往女貞觀，則見其傾圯如故。召吳興二縣責之。二縣對曰：「日前唐伯虎與祝希哲，從維揚來，極稱明公，興此盛舉。小知縣即依數與之矣。」鹽使者悵然，知為二人所騙。但惜其才，故亦不究。

按：唐伯虎・祝希哲，皆海內一時名家也。但以不得志於時，遂縱於聲色，青樓酒肆中，無不聞其名。然非口若懸河，才高倚馬，何以能傾動使院<sup>(1)</sup>。此之騙，可謂騙之善矣。獨計當今冠進賢而坐虎皮者，咸思削民脂以潤私橐，斂衆怨以肥身家。其所以騙民者何如。乃一旦反為唐、祝所騙，亦可為貪墨者一儆。但其知而不究，亦可謂有憐才之心者矣。

(1) ヤクニン。和刻本ヤクシヨ。

#### 45. 陳全遺計嫖名妓

(卷二 36 b、十三類〈詩詞騙〉、明刊本卷二 41 a、和刻本 5 才、第 2 話)

金陵陳全者，百萬巨富也。其為人風流瀟灑，尤善滑稽，凡見一物，能速成口號。嘗與本地院妓往來，惟一妓最得意，夏間瓜初出，院妓將瓜皮二片，放於<sup>(1)</sup>門限內，詐令一人慌忙叫全云：「某姐姐<sup>(2)</sup>偶得危病，要你一相見，方瞑目。」全即乘馬速至，慌忙進門，腳踹瓜<sup>(3)</sup>皮跌倒。眾妓鼓掌大笑云：「陳官人快做一口號，不得遲。」全即答曰：「陳全走得忙，院子安排定。只因兩塊皮<sup>(a)</sup>，幾喪我的命。」眾妓欣然，遂會飲而罷。

(a) 鉛汞按、這双関ニ意リヨウギンナ [=ア] リ、皮ハ蓋 [シ] 〈毛+必〉ト云コトナルベシ、『金瓶梅』〈毛+必〉、陰門ヲ云。\*リヨウギンは両吟の意か

(1) ヲイテ。和刻本：右訓ヲキ。(2) ヲアネ。和刻本アネキ。(3) スベリ。和

刻本右訓フンデ。

又一日，與眾妓游湖，見新造一船，眾妓云：「速作一口號，勿遲。」全即答曰：「新造船兒一隻，當初擬採紅蓮。於今反作渡頭船，來往千千萬萬。有錢接他上渡，無錢丟<sup>(1)</sup>在一邊。上濕下漏未曾乾，隔岸郎君又喚。」眾妓皆歡然歎服。凡遊戲口號類如此。

(1) ステテ。

彼時浙江杭州有一名妓，號花不如，姿態甚佳，且琴棋詩畫無不通曉。但身價<sup>(1)</sup>頗高，不與庸俗往來，惟與豪俊交接。每宿一夜，費銀<sup>(2)</sup>六七兩方得。

(1) アゲダイ。和刻本アゲセン。(2) 傍注：銀。「費」の下に小さな○あり。

全聞之，欲嫖此妓，因而騙之。故令十餘家丁，陸續運船到杭，彼與二三家丁先往。到花不如家，即令家人扛擡皮箱一個，下面俱係紙包磚石，上面一重，俱是紙包真銀，每十兩為一封。入花不如臥房內，當面開箱，取銀賞賜妓家諸役甚厚，奉不如白金十兩，不如與眾役，俱大歡喜，以為此大財主也，所得必不貲矣。不如問曰：「客官貴處<sup>(1)</sup>？」全曰：「金陵。」又問曰：「高姓？」答曰：「姓浪。」又問曰：「尊號？」答曰：「子遂。」不如整盛席相款，子遂不去，只在彼家。

(1) ヲクニ、和刻本ヲトコロ。

過兩日，又一家人來報云：「某號船已到。」子遂云：「餘貨只放船內，但扛擡皮箱，進姐姐家來。」如是者三四次，皮箱有五六個，在不如臥房內矣。子遂見不如帶珠，云：「你這珠俱不好。我有大珠數百顆，個個俱圓，候此號船到，我去取與你。」

將近月餘，子遂欲心已足。有一家人來報云：「某號船到。」子遂對不如言曰：「此號船不比前船，俱是實落寶貨，須我自去一看，兼取大珠與你。其皮箱數個，安頓<sup>(1)</sup>在你臥房，你須照管。我午後方能進來，但叫你家下一人並頭口一個，同我去。」不如遂令一人跟隨，並驢仔<sup>(2)</sup>一個，與子遂同去。

(1) ヲク。和刻本ナラベヲキ。(2) ウサギムマ。和刻本ムマ。

行至半路，子遂慌忙言曰：「我鑰匙一把，安放在你姐姐房內，一時起身，未及帶來，你要去取來。」其人即回取。子遂云：「且止。要我有親手字<sup>(a)</sup>去<sup>(1)</sup>，你姐姐方肯<sup>(2)</sup>把鑰匙交付與<sup>(3)</sup>你，不然，取不來<sup>(4)</sup>。」子遂乃下驢，入紙店，寫一口號云：「杭州花不如，接著金台浪子遂。著了人<sup>(b)</sup>，賠<sup>(5)</sup>了驢，從今別後，那得明珠。」封識，與那人回。不如開封視之，知被騙矣，忙開皮箱一看，俱係磚石。子遂預令家人買舟俟候，一到河邊，即上舟回京。後不如細訪，亦知是南京陳全，然已無如之何矣。

(a) 親子字、疑手誤。本文は親子字。(b) 人、疑又誤。本文は人。

(1) ワガジヒツノカキツケヲモツテユキ。和刻本ジヒツノカキツケ。(2) シャウチシテ。(3) アタヘン。(4) ワタスマイ。和刻本エトツテコマイ。「エ」は不可能の意を表している。(5) ソエテ。和刻本ツケ。

按：妓家嘗是騙人，輕者喪家，重者喪身，未嘗有被人騙者。況花不如高擡身價，選揀孤老，其騙人財，尤難計算。豈知有陳全之術，又有神出鬼沒者乎。賠人賠驢，悔無及矣。此雖陳全之不羈，亦足供籠絡〈行+亢〉院之一笑云。

※本稿執筆に際して JSPS 科學研究費補助金 18K00315、18K00351、20K00365 を得た。

2021 年 2 月 19 日受理 2021 年 3 月 1 日採録決定